

◎ 連合会・労協Gだより

早いピッチで「雇用シンポ」を第四弾まで打ってきた。

沢山の人の暖い援助・協力で心から感謝したい。

しんぶん・協同の発見誌が内容を伝えてくれているように、労協運動の幅と質を広げ深める新たな活力源となっている。

岡山集会で、コーディネーターをされた弁護士石田先生は、

「労協というのは、一週間前までまったく知らなかったが、非常に未来のある運動だと感じた。」と、活動冥利につける意見を述べられた。

その上、各地の高齢幹部が文字通り人生の全てをのせた渾身の力を入れて、集会成功のためにとりくんでいる緊張と喜びの姿には心を洗われた。

これまでやれるのは集会の提起が時宜をえたことが最も大きいですが、合せて連合会の奥事務局長の

「現地張り付き」の奮闘があつてのことだ。

彼には、「21世紀まで追求しつづけるテーマだから一貫してやったら。」と酷なことを言っているが、彼にとっては（連合会にとっても）様々な運動を知り、すぐれた人を訪ね集りを成功させる貴重な体験を積み重ねているのだと思う。

第五弾神奈川集会を経て、11月に開かれる協同集会の内容を格段に高めることの一つになるのだろう。

雇用シンポ、協同集会での役割りを共に担う労協Gだが、事業の本格的発進は、計画したように恰好よくはすすんでいない。パラの石井さん、エコテックの都筑さん達の苦闘と思い入れは、いっそう深くきざまれている。Gのこの苦闘の中から教訓を引き出し次なる飛躍の方針をつくるのが秋の課題となる。（中田 宗一郎）

◎ センター事業団だより

観測史上始まって以来の猛暑も漸く一段落、「クーラーなしでは眠れない」と、贅沢なことを言っていた我が同輩達もぐっすり眠れる日々を迎え、仕事に拍車がかかり始めた。6～8月の自治体集中行動が月間としては一つの締めになり、来年の第7次123運動へ向けて実り多い秋の陣が始まる。特に今年は「医療廃棄物の収集」「院内感染防止対策」「病院清掃のサービスマーク」と病院関連の事業にとっては盛り沢山である。センター事業団初めての生産事業ということで組合員の期待も大きい「藤田はじめのパンの店」の開店が9月4日にせまっている。主食パンのメニューも出揃い地域の評判も上々である。事業所では協同購入をする予定。高齢者協同組合の取組が、9月14日の設立に向けて急ピッチで進んでいる。「私は、歳をとって明日にも死ぬかもしれない。だから高齢者協同組合の恩恵は受けられないかも

しれないけれど、これはいいことだよ」と、今でも夜間中学に通う74歳の組合員が夢を語ってくれる（ほっとらいん164号）。各地の取組に先駆け川崎では3度目の懇談会も予定されている。地域の高齢者の期待も大きくふくらんで、設立には藤沢市長の参加も決定した。今年の新卒の採用内定は30名程度になりそうである。若干辞退が予想されるので昨年よりは少ない人数となる。今年は学生の出足が非常に早く、こちらの対応も例年にまして苦労があった。4次面接まで行ったが、それぞれ15～30分ぐらいで評価を下す訳だから、一人の人間の一生を決めてしまいかねない場面で不十分のそしりは免れない。「面接を受けさせて頂いて、これだけ丁寧に聞いて頂けてここを受けた甲斐がありました」と、ある女子学生の弁。就職活動の厳しさを毎回感じながら苦しい選択をしなければならなかった。（坂林 哲雄）